

# フードビジネスと日本経済の将来

静岡県・静岡市立商業高等学校 3年 杉本 沙希

私は日本経済を活性化する将来有望な産業はフードビジネスだと思います。その理由は五つあります。

まず一つ目の理由は、一日三食を3歳から80歳までとり続けると、一生のうちに8万回以上の食事をとることになります。食欲はなくなることはなく再生されます。ですから、朝食を食べてもお昼にはおなかがすきます。昼食を食べても夜にはおなかがすきます。またおやつや夜食などの間食もとりま<sup>ほか</sup>す。他の商品では、一生の間に8万台の自動車を購入する人も、8万台の家電を購入する人も、8万着の衣類を購入する人もいません。食は欲望が再生されて、フードビジネスはそれによって支えられているビジネスです。ですから、需要がなくなることがなく、衰退していくことも消滅していくこともないので、将来有望だと期待出来ると思います。

次に二つ目の理由は、<sup>がん</sup>癌・脳卒中・心臓病・糖尿病などの生活習慣病やメタボリックシンドロームなどの健康問題が注目されていることです。これらの健康問題は、日ごろの食生活が大きく関わっています。ですから、これらの健康問題について考え、予防していく際に食ということは絶対に外せません。そのため、世の中は今、低カロリーや低コレステロールなどの食品が増加していて、健康に役立つ食品の需要が高まり、食に関して健康志向が高まっていると思います。ですから、保健機能食品・健康食品・サプリメント・健康補助食品などの健康に役立つ食品は今後より注目されていくと思います。このようなことから、健康的な食生活を送るためということにおいても、フードビジネスは、将来有望だと期待出来ると思います。

次に三つ目の理由は、高齢化が社会問題として重要視されていることです。高齢化が進行する中で、病院や介護施設などの需要が増えています。入院していたり、施設に入ったりしていても毎日の食事は欠かせません。ですから、今後高齢化が深刻化していくに伴って、病院食や介護食の需要が急増していくと思います。需要が増えれば、それに比例して、供給していかなければなりません。ですから、栄養士や管理栄養士、介護食士の仕事も今後フードビジネスの一つとして注目していくべきだと思います。高齢化が進行することは望ましくありませんが、これからどんどん進行していくと考えられるので、一つのフードビジネスとして、将来有望だと期待出来ると思います。

次に四つ目の理由は、フードビジネスは感謝をされるビジネスであるということです。買い物に行った際、お金を払う消費者が「ありがとうございます」とお礼を言いませんが、飲食店に食

事に行った際、サービスがよく美味しければ「ごちそうさま」や「おいしかった」などと感謝の言葉を口にします。消費者に感謝されるビジネスということは、不況の世の中でも衰退していかないと思います。いくら世の中が不況であっても、食は絶対に欠かせないだけでなく、人々の癒しとなると思います。ですから、美味しい物を食べ、消費者が癒され感謝し、感謝された経営者も嬉しくなりより消費者に喜ばれるようにと向上心を持っていくと思うので、いいサイクルが出来ると思います。ですから、今のような不況の世の中であっても、将来有望であると期待出来ると思います。

次に五つ目の理由は、女性が就きやすい分野であるということです。現在食に関する資格は、調理師・栄養士・管理栄養士・製菓衛生師をはじめ、他にもたくさんの資格があります。また、フードビジネスと一口に言っても、レストランで調理をする仕事だけでなく、栄養価を計算し、給食の献立を考える仕事や介護食を作る仕事、お菓子を製造する仕事など、他にも様々な仕事があります。最近はお菓子の製造などの仕事に女性が随分進出しています。実際、今述べたように、フードビジネスには女性が随分進出していますが、薄れつつあっても、男性は働きに出て、女性は家で家事や育児をするという日本古来の考え方の中、炊事は女性の仕事というイメージがあると思います。ですから私は、昔からのそのようなイメージからもフードビジネスは女性が進出しやすいと思います。今後女性の社会進出が進んでいくに伴って、フードビジネスも進展していくと思います。ですから、将来有望だと期待出来ると思います。

近頃注目されている、健康問題・高齢化社会・不況・男女共同参画社会の四つの社会情勢のキーワードに当てはめて考えた結果、このような五つの理由から、私は今後フードビジネスが日本経済を活性化させる産業として最も有望だと考えます。ですが、食品の産地偽装問題や、賞味期限改ざん問題など、たくさん問題もあります。今後フードビジネスが発展していくのをお願いと共に、経済を活性化させることや、企業が利潤を求めることよりもまず先に、食の安全を守って欲しいと思います。ですから、発展に伴ってそのような事件が増えるのではなく、なくなっていき、食は生きる上でなくてはならないものなので、消費者に優しいビジネスであって欲しいと思います。

そして、私も将来フードビジネスに関わる仕事に就いて、少しでも日本経済の活性化に貢献したいと思います。

